

空港スポーツ緑地インクルーシブひろば遊具新設について

はじめに

令和5年3月に供用を開始したインクルーシブひろばは、たくさんの子どもで賑わい、大きな利用促進に繋がっています。遊具の試行設置から始まり、ひろば整備後も「みんなが使えるインクルーシブひろば会議」や「インクルーシブDAY」等を開催する継続的な取り組みは、全国的にも好事例として評価いただいています。

そのなかで、供用開始から現在まで、定期的に行っているアンケート調査において、「遊具を増やしてほしい」という意見が多くあることや、1つの遊具に幼児と小学生が混在し危ないなどの課題も明らかになってきました。

利用者の意見

アンケート調査では、以下の4つが多く挙げられており、そのうち遊具に対する意見が未対応となっています。

日陰が欲しい

自動販売機が欲しい

トイレをきれいにしてほしい

遊具を増やしてほしい

対応

日除け用のテント2張を備品購入、設置
トイレ新築により、自販機や休憩所等の機能充実

未対応

遊具の選定

これまでの課題やアンケート調査などを踏まえ、新しいインクルーシブ遊具の選定を新保小学校の児童と協力しながら行いたいと考えています。

※選定方法については他県の事例を参考に（ワークショップの開催、インクルーシブ出前授業）などを考えており、意見を伺いたい。

遊具新設の場所

新しい遊具は、施設の一体感を考慮し、ひろば中心を予定。



現在の日除けテントの位置に設置



今後のスケジュール

	令和 7 年									令和 8 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
新保小と連携し 新しい遊具を選定												
工事工程		設計業務							工事契約・準備			工事着手

R8. 3月頃工事着手～R8夏ごろ供用

他県の事例

●東京都多摩市 大谷戸公園

多摩市 大谷戸公園では、インクルーシブな広場を新たに整備する際、地元小学校の児童から意見を聞き遊具を選定しました。

令和6年9月
小学校での授業

市と遊具メーカーが主体となり、地元小学校の3年生に公園の現状や、遊具の設置場所、インクルーシブ遊具とは何かについての授業を実施。



令和6年10月
特別支援学校との交流

もともと交流のあった特別支援学校の生徒たちと遊び、気づいたことや公園の遊具に生かせそうな発見を整理。

10/18 桜の丘学園との交流

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

10/18 桜の丘学園との交流

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

【桜の丘学園の児童から学ぶこと】
桜の丘学園の児童は、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。また、障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に生活していることに慣れている。

令和6年11月
ワークショップ

これまでの経験を活かし、遊具の選定を行うWSを開催。4つのプランの中から大谷戸公園に設置する遊具の組み合わせを選定。

みんなで考える遊具プラン

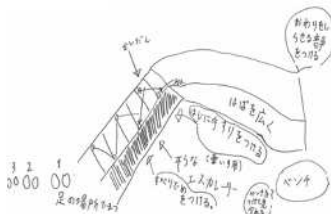


●東京都品川区 大井坂下公園

品川区 大井坂下公園では、区内の小学生を対象に、障害の有無にかかわらず、みんなが一緒に遊ぶ公園のアイデアを考えるワークショップを開催し、子どもたちから出た意見をもとに公園を改修しました。

令和元年10月～令和2年7月
ワークショップ

区内の小学3年生～小学4年生（30名）を対象にWS（6回）を実施。
第1回：自由に意見が出せる環境づくり（自己紹介等）
第2回：障害に対する理解を深める（〇×クイズ）
第3回：車いすやアイマスクで障害を疑似体験
第4回：遊び場のアイデアを考える
第5回：考えたアイデアを模型にする
第6回：発表会



令和4年3月
工事体験会＆お披露目会

・6回のWSで出たアイデア（80個以上）のうち31個のアイデアを取り入れた公園へ整備。
・令和4年3月13日にリニューアルした公園をお披露目＆工事体験会を実施。

